

【様似地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●マナマコ人工種苗生産・放流事業

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		取組場所	関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○つくり育てる漁業の推進による水産資源の維持・増大</li> </ul> <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○持続的かつ良質な生産の確保</li> </ul>		<p>【取組の様子】</p>    
現状における取組実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナマコ漁獲量はH2の60tをピークに減少傾向となりH10年以降は20~30t台で推移している。資源の更なる増大及び維持するため、H29年より漁業者が主体となり関係機関と連携しながら人工種苗生産・放流を実施</li> </ul>		
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続的な生産数の確保</li> </ul>		
(2) 取組内容・実施体制（Do）			
取組内容、方法、手順、実施体制	<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マナマコ人工種苗生産～放流</li> <li>・簡易保育礁による生息適地調査</li> <li>・陸上での中間育成</li> </ul> <p>【取組方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浦河町のウニ種苗センター内で採卵～受精～幼生飼育まで行う</li> <li>・放流は様似2箇所（様似・鶴苦漁港）、浦河3箇所（荻伏・東栄・浦河）</li> <li>・様似放流分は簡易保育礁と着底稚仔放流へ、鶴苦放流分はウニ籠、着底稚仔放流、中間育成へ</li> </ul> <p>様似地区：保育礁（184.3万粒） 着底稚仔放流（48.1万粒）          鶴苦地区：ウニ籠（198万粒） 着底稚仔放流（48.1万粒）          中間育成（165万粒）→酸素不足によりへい死（生残約789匹）</p> <p>【取組手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月15日 親ナマコ採取、採卵～人工授精、受精卵収容、幼生飼育</li> <li>・8月3～7日 各漁港にて放流、陸上中間育成開始</li> <li>・10月4～5日 陸上飼育分のへい死を確認。 生残を浦河町ウニ種苗センター内に移動</li> </ul> <p>実施体制：日高中央漁協、様似町、浦河町</p>		
(3) 効果項目に対する評価（Check）			
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標放流数：1,200万粒 R3放流数：2,044.1万粒（170%） （うち、様似地区：478.5万粒 他地区：1,565.6万粒）</li> </ul>		
反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初目標を大幅に超える種苗生産を行えた一方で、放流後の状況把握、管理手法が未確立</li> </ul>		
(4) 取組の改善措置（Action）			
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産数増加による作業工程の見直し、効率化を図る</li> <li>・陸上中間育成施設の見回り頻度を増やし、不備がないかを確認</li> </ul>		
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な放流サイズの見極めや生息適地の検証について引き続き検証が必要</li> <li>・各地での取組方法等の情報収集</li> <li>・放流予定地の赤潮の状況把握</li> </ul>		